

東桜学区 七小町^{せんじゅかい}泉寿会（七小町^{ななこまち}自治会）の清掃作業

【しゃべることで元気になる！】

七小町自治会の七小町泉寿会は月に1回、泉どんぐり広場（※1）を清掃します。

参加者10名程度のほか、自治会長や保健環境委員（※2）も一緒に草取り、^{せんてい}剪定、ごみ拾い。皆さん60歳以上とのことですが、手慣れていて力作業もなんのその。泉



（七小町泉寿会のみなさん）

寿会長の安福（やすふく）さんはビワの木に登ってシャンシャンとハサミを動かし「87歳よ」と胸を張っておられました



（作業の速さにびっくりです）

元気のみなもとは「おしゃべり」です。作業中もにぎやかですが、終わったあとは茶話会です。ひとり暮らしの高齢者の孤立化を防ぐための地域の交流の場になっています。

※1 どんぐり広場…名古屋市内に所在する幼児のための小規模な遊び場で、地域の方々と行政が協同して設置しているもの。

※2 保健環境委員…公衆衛生に対する正しい知識の普及、実践などを通じて公衆衛生を向上増進する、地域公衆衛生活動のリーダー。

山吹学区

主税町子ども会（主税町自治会）のお掃除会

【掃除後の楽しみ～みんなで遊ぶ】



主税町自治会の主税町子ども会（※1）は、月に1回、主税町公園をお掃除します。落ち葉が多く、子どもたちもたくさん遊ぶので定期的に掃除したほうがよいそうです。

（子どもも掃き掃除）

楽しみは、掃除のあとにみんなで遊ぶことです。取材した日は山吹学区連絡協議会（※2）主催体育祭の練習日でした。子どもと一緒に保護者の方が汗を流していました。主税町子ども会ではほかにも、一年のなかで、スイカ割りや豚汁会などを実施するそうです。「子どもが喜ぶ顔がいちばん嬉しいわ」とおっしゃっていました。



（学区の体育祭に向けて大縄跳びの練習）

掃除をきっかけに、家族や横のつながりが強くなれるのは素敵ですね。

- ※1 子ども会…遊びや仲間づくり、異年齢交流を通して、子どもたちの自主性や社会性を育むことを目指して活動する組織。
- ※2 学区連絡協議会…住民相互の交流を図り、連帯を高めることを目的として、学区内の様々な団体の代表等で構成された協議組織。

東白壁学区

あいおいちょう

相生町3・4丁目自治会の七夕獅子祭り

【伝統を守りながら楽しめる工夫を】

七夕に、東白壁コミュニティセンター（※）で獅子を飾り、お祭りを行います。昔はこの地域で、七夕に獅子をかつぐ風習があったとか。その後、管理の面から獅子を



手放すところもでてきましたが、相生町3・4丁目自治会では木彫りの獅子を近藤会長が保管しています。いまは記念撮影というかたちで楽しんでもらいます。

（会長の近藤さんと牡獅子）

また笹に願い事を書いてお祓いをしたり、くじびきを工夫したりと、伝統と楽しみをうまく組み合わせています。子どものいる家庭にも声をかけ、令和6年度は自主防災訓練も同時に開催しました。一生懸命な姿に頭が下がるばかりです。



（くじびきはお楽しみ!）

※コミュニティセンター…地域住民の連帯とコミュニティ活動の推進を図るために利用できる施設。

東白壁学区 まちライブラリー@RIGHTS in 東白壁コミセン

【自分では選ばない本を手にする体験を】



(左から安田さん、小松さん、
見鳥さん、服部さん)

東白壁コミュニティセンター（以下「コミセン」という）では、令和6年6月から1階の談話スペースに本のコーナーを設けています。「児童館や図書館が遠く、近所の大型書店が閉店し、本を手

に取る機会が減った」と発起人の小松さんはいいます。小松さんは、幼いとき、児童館に毎日通った経験から「自分では選ばない本を手にとることの楽しさ」を知りました。今はインターネットでの購入が増え、自分が選んだ本しか目にしません。そこで「地域のコミセンに本をおけないか」と見鳥さん、安田さんに相談し、実現しました。日頃の管理はコミセンの服部さんにお手伝いいただいています。

貸出ノートに借りたい本のタイトルを記入していただいて、セルフで貸出と返却を行います。利用する側がゆったりしつつ運営側も無理をしない方法を考えて



(貸出ノートと感想ノート)

います。感想ノートには「ちょうど読みたかった本があったよかった」といった記載もあり、人と人がつながるツールになっています。名前にある「@RIGHTS」とは「子どもや地域の一人一人に光をあてる」という意味です。優しい気持ちが伝わってきますね。

葵学区 女性会ハンドベル部

【みんなが無事に来ることが大事】

葵学区女性会(※)のハンドベル部は2013年の「夢ステージ・ひがし」(東区役所地域力推進課主催、現『ときめきステージひがし』)に出演したのがきっかけで続いています。



(講師の猪股さんと
女性会会長の武田さん)

講師の猪股さんは「楽しければ続く」をモットーに工夫をしています。例えば、ハンドベルの一つの音を2人で担当し、経験ある方が教えたり、欠席を補えるようにして、安心して参加できるしくみにしています。また、楽譜を読めなくてもできるといった身近な点もハ

ンドベルの良さとして、続く理由になっていると思います。



(18名参加しています)

ある参加者は「和気あいあいとした雰囲気
気がよい」とおっしゃっていました。猪股さんが最も大事にしていることは「みんなが練習に無事来ること」です。仲間一人ひとりの「見守り」を一番に考える姿がとても印象的
でした。

※女性会(地域女性団体連絡協議会)…地域の女性たちが学びと実践を通して力を合わせ、それぞれの地域にあった方法で、課題の解決や地域の絆づくりに取り組む組織。

葵学区

くるまみちまち

車道町六丁目自治会

たかむ

高牟神社の大祭へ参加

【祭りをとおして三世代の交流を】

車道町六丁目自治会は、千種区にある高牟神社の氏子として 10 月 14 日、15



日に行われる大祭へ参加しています。獅子のお宿を用意してお供え物をし、子どもたちが中心となって高牟神社でお祓いをします。

(お獅子さまと歩く子どもたち)

貴重な三世代の交流の場となっており、高齢の方々のなかには、子どもたちと写真撮ることが楽しみだという人もいます。この写真を一年後にみんなで見ることで、子どもの成長を喜び、先人を偲ぶこともあるそうです。かつては子どもが減って存続が危うい時期もあったそうですが、「やめるのは簡単だけど再びやるのは難しい」という声を大事に続けてきました。今は子どもが増えているまちとして、新しい子たちを



迎えながら、祭りの体験と記憶を将来につなげていきます。

(子どもたちと交わるのを楽しみにしています)